

第3回 防災支援人材育成プログラム策定会議 議事録

日時：令和8年1月31日（土）9:30～11:30

場所：防災科学技術研究所 第1ユニット棟1階 第3会議室

出席：（策定会議委員 五十音順）天野一男、笠島昇治、草間清那、桑野あゆみ、笹島俊秋、柴田美智子、田中香織、長屋和宏、堀内隆博、松崎貴志、森剛勇、吉田淳（計12名）
（オブザーバー）久保英也、（事務局）李泰榮、今泉賢吾、王尾和寿、若泉政人

欠席：井手よしひろ、野上大介、山本美和

オンライン参加：なし

【議題】

1. 第2回会議の振り返り
2. 防災支援人材育成プログラム（セッション3）の内容検討
3. 事務連絡

【配布資料】

1. 第2回防災支援人材育成プログラム策定会議振り返り（地域防災ファシリテーション「形」、セッション2概要：観察と信頼構築、カリキュラム、名簿）
2. 第2回防災支援人材育成プログラム策定会議議事録
3. セッション3：自然災害と災害時の困ることを調べる・説明資料
4. セッション3：自然災害と災害時の困ることを調べる・ワークシート案

議題1 第2回会議の振り返り 省略

議題2 防災支援人材育成プログラム（セッション3）の内容検討は、事務局の李が配布資料を投影し説明を行った。

※これまでの意見交換会での議論をふまえ、プログラムは以下の概要をもとに内容を検討する。

【プログラムの概要】

- プログラム名「地域防災ファシリテーター育成プログラム」
- プログラム作成の目的：自主防災組織や自治会から防災活動をやりたいけれども、どこから手をつけてよいかわからないという相談を防災士会が受けた際、自主防災組織等に派遣する支援者（地域防災ファシリテーター）を育成すること
- プログラムの時間は、座学×2（各15分）、演習×1（40分）、事前及び事後評価（各5分）、演習への切り替え（10分）＝合計90分
- プログラムの説明が15～20分で終わられるように、説明資料は10ページ程度にする
- プログラムは一日で実施完了できるものにする ※複数日の実施は、内容を忘れる可能性があるため

配布資料をもとに、李が行った説明内容は以下の通りである

- ① セッション3概要（ねらい、構成、学習目標、学習内容）
- ② 地域防災ファシリテーション「形」：3. プロセスデザイン（1）リスク同定
- ③ セッション3・パーツ3-1「地域の自然特性を学ぶ」
 - 自然特性1：災害の発生しやすさ（災害リスク）とは何か
 - 自然特性2：自然災害の調べかた
 - 自然特性3：文献や地図、インターネットによる地域情報の収集
 - 自然特性4：ハザードマップで地域で起こりうる災害を知る
 - 自然特性5：ハザードマップが調べられるアプリやサイト
 - 自然特性6：過去の災害情報が調べられるアプリやサイト
 - 自然特性7：地域防災計画により地域の自然特性を知る
 - 自然特性8：地域で起こりうる自然災害の想定
 - 自然特性9：自然災害の想定情報が調べられるアプリやサイト
 - 自然特性10：地域の自然災害の特性を知る方法のまとめ

説明をふまえた委員の意見、質問等および検討事項等は以下の通りである。

資料ページ	委員意見	検討事項等
全体	<ul style="list-style-type: none"> ●（堀内委員）研修を実施する地域が決まった時点で、その地域の社会特性に関する情報を、関連するインターネットサイト（例：自治体等）でまとめて調べることができるようにするのはどうか ●（堀内委員）研修の説明資料で紹介されたサイトを初めて見て理解し、使うことはハードルが高い。演習にうまく導入できる資料の作り方が必要 	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムは、全国どこでも使えるものを目指しているため、自治体によって限定された情報を使わずに調べる方法で進めたいと考えている ●紹介する情報が多いため整理し、混乱しないよう示し方や説明を検討する
	<ul style="list-style-type: none"> ●（桑野委員）高齢者の集中力を考えると、途中で休憩を入れてほしい 	<ul style="list-style-type: none"> ●3-2と演習の間に休憩を入れる時間割にする
	<ul style="list-style-type: none"> ●（久保先生）3-1の初めにワークシートを示し、シートに記入する情報は「地域防災Web」で調べるという流れで説明すると、情報の多さも受け止めやすいのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> ●「セッション3で何をするのか」を最終的なアウトプットであるワークシートを埋めていくという流れとして説明する。資料の構成も検討する

資料ページ	委員意見	検討事項等
3. 自然災害と災害時の困ることを調べる(1ページ目)	<ul style="list-style-type: none"> ● (堀内委員) 3-1, 3-2が各20分、演習が40分という時間割だが、3-1の説明内容が多く、途中で理解が止まるとおいて行かれる可能性がある。「調べる」手がかりとして、民間の「地盤サポートマップ(地盤に関する情報を住所で調べられる)」や国土交通省の「不動産情報ライブラリー(不動産価格や防災情報、都市計画情報などが調べられる)」などを使って説明すると情報もまとまっていてよいのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 3-1は調べるツールをたくさん紹介しており、時間割についても委員に意見をうかがいたい。本当は(セッション3全体で)120分はほしい。大学生であれば120分集中できるが、年配の方は90分が上限ではないか。ご意見をふまえて、ワンクリックで自然・社会特性と災害について調べられる防災科研の「地域防災Web」を含め、各サイトを紹介するよう説明資料の構成を検討する
自然特性1、3	<ul style="list-style-type: none"> ● (長屋委員) 自然特性1で、自然特性(ハザード)と社会特性がかけあわさって災害特性となると定義しているが、同3で「自然災害の特性」という言葉も出てきて混乱する ● (長屋委員) 同3の吹き出しは「災害に対する自然特性」などとしないとおかしい ● (田中委員) 自然特性の「極端な自然現象」は、社会環境とかけあわせるから「自然現象」でよいのではないか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自然現象と災害は分けて考えたいと考えている。[「自然特性(ハザード)」×「社会特性」](災害特性)→「災害の発生しやすさ」(災害リスク)の定義で用語を統一し、混乱しないよう修正する ● 「極端な自然現象」→「自然現象」にし、その下の説明も「強さ」と「頻度」という説明に修正する
自然特性8	<ul style="list-style-type: none"> ● (天野委員) 普段のニュースで、地震とプレート境界の関係は知られているので、図はプレート境界が入っていた方がよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ● 本プログラムは防災士を研修対象としており、防災士がすでにもっているプレートに関する知識は説明していない。「参考資料集(作成中)」の中で説明するようにする

つづいてパーツ3-2「地域の社会特性を学ぶ」について、李が行った説明内容は以下の通りである

④ セッション3・パーツ3-2「地域の社会特性を学ぶ」

- 社会特性1：地域の社会特性(脆弱性・暴露)とは何かを調べる
- 社会特性2：地域の社会特性(脆弱性・暴露)の調べかた
- 社会特性3：地域の人口や高齢化が調べられるアプリやサイト
- 社会特性4：まち並みや土地利用の変化が調べられるアプリやサイト
- 社会特性5：まちを歩いて地域をしらべる
- 社会特性6：地域防災Webであなたの地域を調べる
- 社会特性7：社会特性の被害への影響事例(阪神・淡路大震災)
- 社会特性8：社会特性の被害への影響事例(能登半島地震)
- 社会特性9：地域の社会特性を知る方法のまとめ

説明をふまえた委員の意見、質問等および検討事項等は以下の通りである。

資料ページ	委員意見	検討事項等
社会特性 1	<ul style="list-style-type: none"> ●（長屋委員）「脆弱性」の説明として都市化が挙げられているが、過疎化も説明すべきだと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご指摘の通り。過疎化を説明に加える
	<ul style="list-style-type: none"> ●（久保先生）社会特性をリアルに感じてもらうためには、避難行動が困難な高齢者、障害者等を前面に出して危機感を出した方がよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ●高齢化だけでなく、ろうあ者などの障害者、車いすの方、避難行動要支援者、要配慮者をイラストで入れる
社会特性 5	<ul style="list-style-type: none"> ●（桑野委員）まち歩きの写真は、車いすの人が入ったものにしてほしい。「要配慮者の視点」を、と説明されているし、避難で一番困る方なので 	<ul style="list-style-type: none"> ●写真を車いすの人が入ったものに差し替える
	<ul style="list-style-type: none"> ●（堀内委員）地図に「ブロック塀倒れたら通れなくなる」とあるが、ブロック塀は建築基準法で高さや厚さ等が規定されており、安全かどうかを確認するポイントを教えた方がよいと思う。ブロック塀がすべて危険視されて、結果、避難を妨げるマップになることは避けた方がよい 	<ul style="list-style-type: none"> ●研修で行う説明は（知識ではなく調べ方の）方法論を主としている。ご指摘のブロック塀の安全点検については、「参考資料集（作成中）」に入れる
	<ul style="list-style-type: none"> ●（笠島委員）まち歩きは避難所に行く経路について調べるのか？ <p>【資源について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢（田中委員）一般的な「資源」のイメージと異なるので違う言葉に変えた方がよいのではないか ➢（長屋委員）この資源の問題は、3-1の自然特性1の「災害の定義」に関わると思う。「地域が直面する困ること」があり、困ることに役立つのが「資源」。「災害の定義」で資源まで含めてしっかり押さえることが必要 ➢（久保先生）参考になるのは2020年、熊本県球磨村の特別養護老人ホームで17名が亡くなった水害で、地域住民がサッと支援に入った事例。地域と施設のコミュニケーション、 	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムで説明するまち歩きは、「災害時に役に立つ地域資源を探す」ことを目的としている。危険なところを探す従来のまち歩きではなく、「地域に役立つ資源（物資提供が可能な飲食店や民間事業者、元看護師や現職の介護士など）」を歩いて探す。防災士の方にもその視点を持ってもらうため「資源」について記載している ➢ プログラムにおける資源の考え方や、「形」についてなど振り返りを入れて説明する方向で検討する ➢ 資源は、「参考資料集（作成中）」に「防災資源（防災のための資機材や施設）」と「社会資源（災害目的ではないが災害時に役立つ資機材や施設）」に分けて整理している。それらの情報から、説明資料にも加える（介護ヘルパー、ケアマネジャー、民生委員など）ようにする <ul style="list-style-type: none"> ●地域の資源については、次のセッション4の対策検討で説明する

資料ページ	委員意見	検討事項等
	関係が資源だという視点も重要だと思う	
社会特性 6	●（堀内委員）地域防災 Web の使い方を 3-3 の演習の前に身に着ける必要がある	●演習に入る前に 5～10 分程度、地域防災 Web の操作を体験してもらう
	●（田中委員）3-3 の演習で実際に使うのであれば、1 ページを割いて説明しなくてもよいのではないか	●ご指摘に沿って修正する
社会特性 7	<ul style="list-style-type: none"> ●（長屋委員）社会特性 1 で地域コミュニティの関係性の変化で災害を受けやすくなっていると説明しているので、約 30 年前の阪神・淡路大震災よりは、最近の社会特性の変化に起因する被害事例を掲載した方がよいのではないか ●（長屋委員）事例を変えた方がよい。社会特性 8 が能登半島地震なので、地震以外の事例がよいと思う 	●本プログラムにおいては、地震による「地域社会」の被害を説明する事例として紹介した。西日本豪雨（平成 30 年 7 月豪雨）は岡山県倉敷市真備地区が、都市化し人が集まって脆弱性が高まった（社会特性が変わった）事例となる。そちらに差し替える

つづいてパーツ 3-3 「演習」について、李が行った説明内容は以下の通りである

⑤ セッション 3・パーツ 3-3 「演習」

- ▶ 演習 1：演習の目的
- ▶ 演習 2：「地域防災 Web」を用いた演習の手順
- ▶ 演習 3：自然特性と社会特性から地域で想定される災害状況を調べる
- ▶ ワークシートの記入例
- ▶ 地域防災 Web による東京都板橋区の調査結果事例

説明をふまえた委員の意見、質問等および検討事項等は以下の通りである。

資料ページ	委員意見	検討事項等
演習 1	●（堀内委員）「あなたの地域（市区町村）の自然特性および社会特性から…」とあるが、研修の参加者が同じ地域になる可能性があるのではないかと。そうした場合、ワークシートを埋めるデータが同じになるのではないかと	●プログラムは、茨城県防災士会のフォローアップ研修で使うことが前提であり、複数の地域（市町村）から参加すると想定している。ご指摘をふまえて、「市区町村」ではなく、「小学校区」で調べられることを検討する

資料ページ	委員意見	検討事項等
ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ●（長屋委員）研修を受ける防災士が、演習の前に記入し、演習後に正しいデータで答え合わせができるようにすると、自分を振り返り学びの効果が期待できるのではないか ➢（田中委員）パソコンで入力するとなるとスキルが必要で、茨城県防災士会のメンバーにとってはハードルが高い面があると思う 	<ul style="list-style-type: none"> ●プログラムは、セッション1を除くすべてのセッションで事前評価と事後評価を行う予定。ご意見に沿って、比較できるようにする。-googleシートを使い、参加者がお互いに見ることができるような方法も考えられる。そのため、研修はパソコンが使える環境が前提となる ➢プログラムは研修を受ける人がパソコンを使えることを前提に考えている。前提とするスキルが必要ということで、「運営側のマニュアル」も提供することになると考える
ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> ●（堀内委員）Aの自然特定は調べて記入できると思うが、Bの社会特性は、「木造建物」であれば、多い少ないより、耐震基準の古い（旧耐震）家やマンションの数を調べて記入する方が地域の脆弱性をつかめるのではないかと。耐震化のデータはすぐ手に入れられる。そうしたデータから、「高齢者は古い家に住み、道路も狭い」ということがわかると説明することもできる 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご指摘の通り。地域防災Webでは、災害特性は段階評価しているが、社会特性は評価結果がない。「人口・世帯が○○」、「高齢化率が○○」、「土地利用が○○」、「まちの状況の木造建物が○○」→だから「○○○○」というデータの見方の資料を検討する ●「参考資料集（作成中）」には、「地域の特性から見た災害時の懸念事項」として、自然特性、社会特性ごとに整理している。その情報も説明資料に加える
	<ul style="list-style-type: none"> ●（久保先生）災害について考える場合、社会特性が指標として出るが、実際の災害においてはあまり意味がないと思う。重要なのは「警報（情報）」と「避難を早めること（行動）」、「避難所の活用」に集約されると考える。災害関連死が多いことやマンションが周辺の自治会に入っているかなども重要。「最後に逃げて助かる場所」へのプロセスに焦点を当て、その弱さ（脆弱性）を洗い出す必要があるのではないかと 	<ul style="list-style-type: none"> ●ご指摘は次のセッション4の対策検討になるので、そこにつながる情報として、説明資料に加えることを検討する ●避難は重要である。しかし、地域によっては避難どころではないというところもあつたりする。課題（困ること）が地域によってまちまちであり、次のセッション4では課題の優先順位を検討する。その中に避難所運営も入ってくると思う
	<ul style="list-style-type: none"> ●（長屋委員）高齢化率と耐震化率をかけたデータがあれば、高齢者（要配慮者）と耐震改修を定量的に検討できると思う。行政が公表している耐震化率や論文のデータでもよいと思う 	<ul style="list-style-type: none"> ●（上田）現時点で地域防災Webに、データをかけ合わせた情報はない ➢（李）市町村が公表しているデータはある。地域防災Webは本プログラムとは別であり、所内の別部門と検討が必要になるため、すぐに対応することは難しい

以上